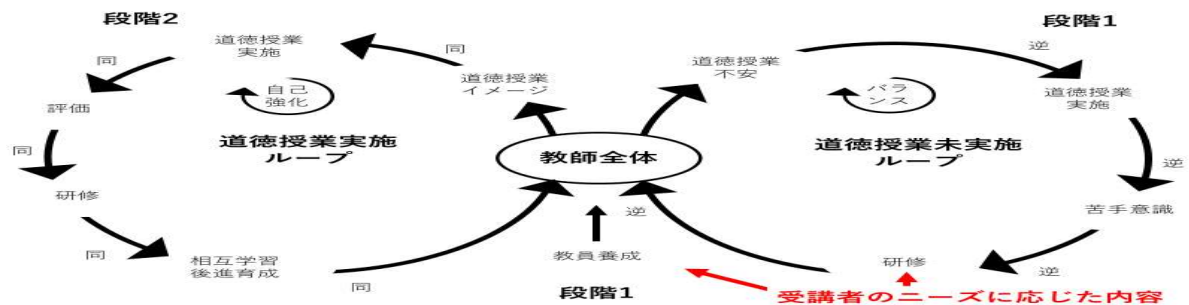


「考え、議論する」道徳授業に向けた教育実践・教員養成・教員研修の協同モデルの検討(継続)

藤澤文(鎌倉女子大学 児童学部 准教授)

本研究は道徳科授業経験が少ない教師/教職学生(道徳科授業初学者)が「考え、議論する」道徳授業を実施に至ることを目標として、システム思考(Stoh, 2015)を援用し、「なぜ教師によっては道徳授業の実施が難しいか」を検討した。その結果、道徳教育のステークホルダーである学校(実践)、教育委員会(研修)、大学(教員養成・研修)の3組織が連携し(協同モデル)、教員養成・研修に受講者ニーズに応じた内容を取り入れる必要があると考えた。本研究では、地域Aの教員養成・研修にモラルジレンマ討論(MDD)を組み入れ、道徳授業初学者による「考え、議論する」道徳授業の実施を目指す。

Figure: 「なぜ、教師によっては「考え、議論する」道徳授業を実施することが難しいか?」に関するループ図と解決策(赤文字)



注: 同は正, 逆は負の関係を目指す。赤文字には実証研究の結果を踏まえ、受講者のニーズに応じた学びを投入している。図の見方: 教員養成を経た後に一部の教師は道徳授業を実施し、よい評価を受けることで道徳研修への意欲や知識も高まり、後進育成も行うように成長する(自己強化ループ)。しかし、一部の教師は道徳授業実施への不安が高く、可能な限り授業を行わず、苦手意識が高まり、研修には参加をしない(バランスループ)。そこで、道徳授業初学者が期待する受講内容を教員養成・研修(赤文字部分)に組み込むことにより、すべての教師が道徳授業の実施(自己強化ループ)に至れることを目指す。

【研究5(教員研修)】研究1, 研究2を踏まえ、教員免許状更新講習(Figure1の段階1に相当)、道徳授業の勉強会(段階2に相当)を企画し、実施した。結果・考察: 段階1(2020/2021年)はCOVID-19のため中止となった。段階2はオンラインで開催され、異なる属性の教育関係者30名程度が参加した。オンラインでも多様性を担保した勉強会を開催できることを示せたが、初対面の人がオンラインで道徳を議論することに課題も残された。【研究6(教員養成)】研究3を踏まえ、地域Aの教職学生を対象に、教職科目「道徳の指導法」(「道徳授業の教授法」の回)を異なる講義方法で実施した。COVID-19のため、研究計画とは異なる小学校免許向けのMDD・オンデマンド講義とMDD・対面講義(研究3で実施)を比較した。各講義前後に道徳授業意識尺度(3因子:「教授法と多様性」,「教具」,「ジレンマ」)(研究3で開発)を測定した。結果・考察: 3因子とも両条件のポストテストにおいて得点が高く、教授法と多様性のみ、MDD・対面講義において得点が高かった。

【研究7(教育実践)】首都圏の中学校、特別支援学級50クラスを対象として道徳授業を参観し、考えたり、議論を深めたりする発問(掘り下げのQ)がどのような発話により予測されるか検討した。結果・考察: 分析に先立ち、全発話(9,602語)が14種類(傾聴・同意、確認・質問・繰り返し、説明・意見、追加、訂正、批判、反論、統合、無関心、注意、掘り下げのQ、全体の意見を聞く、関係ない発話、分類不可能)にコード化(10,361)された(例:「24-246-t-11, 8」はID24の授業において246番目に生じた教師の発話であり、掘り下げのQと統合の要素が含まれていることを指す)。学年と性別(授業者)では、使用コードの頻度におおむね差はなかった。掘り下げのQはほかのコードと無関連だが、クラスの総発話量、確認・質問・繰り返し、追加、批判により予測されていた。【研究8(地域連携)】地域Aの教師と非教師(一般成人)400名を対象とし、道徳教育に関して道徳授業、教員養成、教員研修への期待を明らかにし、教員養成、教員研修に反映させた。予備調査を踏まえ、オンライン調査会社を用いて本調査を実施した。結果・考察: 教師は教授方法、非教師は教授内容に要望があり、前者は受講内容に教授法を取り上げた本研究を支持していた。非教師は子どもに教えて欲しい内容として道徳授業に含めないものも挙げており、地域・学校が連携して道徳教育に関わることで両者の乖離を埋め、発展した授業が展開される可能性が示唆された。まとめ・今後の課題: 本研究開始時は「考え、議論する」ことができる道徳授業の教授法を習得する必要性から、MDDを教員養成・研修に組み込み、3組織それぞれの観点から包括的に実証研究を行い、道徳授業の実施に至れるよう検討してきた。2020年以降はそれに加え、非対面で議論をする必要性が出たため、今後は教員養成・研修にオンライン(Zoom, バーチャル・リアリティ)を活用したMDDの教授法を加え、「考え、議論する」道徳授業の実施に向けて検討を始めている。